

あゆみ通信

VOL. 154

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

絶対他力の大道 清淨高之師(林虎宇先生訳)

第5章

何をそんなに欲しがるので
すか。何をそんなに要求する
のですかお前に一体何の不足
があるのですか。

もしお前に不足があるなら
ば、それはまったくお前自身
の不信によるものです。如来
はお前が生きるために必要な
一切のものをすでにお与え下
さっているではありませんか。
この与えられているものを忘
れて、どこにお前の満足を得
る道があるのでしょうか。

もしお前に不足の心がある
ならば、お前はいいよ教え
を深く聞いて、如来のおはか
らいにおまかせして、与えら
れたものの中に安んじて生き
ることを学ばねばなりません。
それを人に求め物に頼るのは、
まことに卑しむべく恥ずべき
ことであります。如来の仰せ
を踏みにじるものです。

如来はお前に踏みにじられ
るようなお方ではないが、如
来を踏みにじているときのお
前の苦しみをどうするのだ
すか。(つづく)

あけましておめで とうございます。

まずは、昨年1年間「あゆみ
通信」にお付き合いくださいま
して誠にありがとうございます。
また、折れそうになった心を、
お励まし下さった皆様には厚く
お礼申し上げます。

「あゆみ通信」は、多くのお
仲間の皆さんとともに、ご一緒
に真宗の仏道を歩むべく、発信
してまいりました。とりわけ、
私自身も含め、高齢化に伴う様々
で、思うように聞法できない皆
さんに、何とか一緒に歩むこと
を願っています。内容不十分な
点は、お許してください。

今後の第2組の寺院の興隆を
願い、次世代を担う朋友会の皆
さん、先輩の門徒会の皆さんと
ともに、今年一年、コロナに負
けることなく、歩み続けましょ
う。南無阿弥陀仏。(本)

新年のご挨拶

会長 細川 克彦

新年、あけま
しておめでとう
ございます。

去る12月の第
2組報恩講にお
いて、お寺での
年数回の行事の
時だけ、ご法話
を聞かせていただ
くのはあまりにも
寂しい、数カ寺で
集まっても月1回
ぐらい聞法会か座
談会を開いてほ
しいと提案させ
ていただきました。
皆様も同じよう
なお気持ちでは
ないでしょうか。

なかでも座談会
は大事だと思います。
日ごろの気持ちを
正直に皆の前で話
し、同感されたり
、助言されたり、
そして仏法に照ら
される時、とても
充実したように感
じられるのでは
ないでしょうか。

そして来月もま
た来ようと言う
思いになるので
はないでしょうか。

ご一考いただけ
たら幸いです。

本年もどうぞよ
ろしく願ひ申し
上げます。合掌。

第48回近畿連区同朋の 会推進研修会(リモート) のご案内

「近畿連区」は、
大阪教区をはじめ
近畿の京都教区長
浜教区と山陽教区、
そして四国教区
の推進員組織の
集まりで毎年合
同研修会を開催
し、聞法と交流
を目的にしてい
ます。今年は京
都教区の主催で
す。

今回は、コロナ
感染の収束が見
通せない中を、
仏法の機会を
模索した結果、
WEB開催とな
りました。

開催期日 2022年2月16日(水)

受付開始 12:00

閉会 15:00

(詳細は2面の別項で)

2年ぶりのあゆみの総会



2021年12
月12日(日)
午後1時30
分から、2
年ぶりにあ

ゆみの会総会が、
2008年12月に
発足した即應寺
で、コロナ感染
拡大に最大限の
対策をしながら
開催され、第2
組の墨林浩組長
(光照寺)、池田
英二郎副組長
(宗恩寺)、藤井
真隆同朋の会委
員(即應寺)を
迎えて、会員13
名が参加。久し
ぶりの顔合わせ
で、歓談される
姿も。

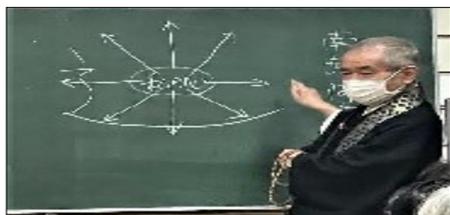
総会は、真宗宗
歌で開会。

細川克彦会長
(佛足寺)開会
挨拶では、一昨
年12月の総会
(書面審査)で
浪花博前会長
と交代したこと
を報告、12年
間にわたる浪花
会長に謝意を表
明された。また
、墨林組長から
来賓挨拶として
、第2組寺院に
おいても、同朋
の会が活発にな
るように努めたい
と述べられた。

吉田雄彦副会
長(法山寺)の
進行で議案につ
いて審議。(参
加者13名、委
任状18名で成
立)事業報告及
び事業計画案
について細川会
長から例会は9
月に門徒会と合
同研修会のみ実
施。次年度はコ
ロナの状況を見
つつ、3月、6
月、9月実施を
計画すること。
そして会計報告
と監査報告は私
事都合で欠席の
本持副会長(会
計兼務)に代わ
り宮澤典男常任
委員から報告。
また、監査報告
を細川孝子監査
委員から報告。
そして予算案
では、繰越金に
鑑み、役員会で
新年度は年会費
を集めない旨を
報告。それぞれ
審議、承認をい
ただいた。休憩
後の記念法話を
、藤井善隆先生
(即應寺前住職)
から講題「真宗
門徒の念仏生活
」についてお聞
きし、恩徳讃を
唱和して閉会し
た。

南無阿弥陀仏様の本願の呼びかけ

藤井善隆師法話聞き
佛足寺 細川克彦



お念仏は、分かっても分からなくても、まず称えることが大事である。

「南無阿弥陀仏」は仏様からの、「阿弥陀仏に帰依せよ」という本願(いのちの願い)の呼びかけである。そして称えるとともに、聞いていく(聞法)ということも大変大事である。

普段、私たちは「私の心」を立場にして生きているが、それは迷いの中で右往左往しているだけである。しかし、その中で何か不安や虚しさを



感じることもある。

私たちの人生の底にあって、迷いの身と一つになって、私たちが担い、支えてくださっている、大いなる真実のいのちがある。



また、それを「大悲」と言い、どんな人にも「南無阿弥陀仏」という言葉となって働きかけている。

本願の教えを聞き続けて、根本の願いに目覚めることを信心と言い、阿弥陀仏に帰命

するということである。帰命するということがとても大事である。帰命が無くて、口で称えているだけでは本当に生きる力になってこない。本当に帰命したときには、そのことが生活に現れてくるとして、善導大師5つの現行として教えて下さっている。



(「真宗聖典」335頁)

まず「読誦」。それはお経や七高僧の言葉を覚える、暗唱することである。次に「観察」。仏様の智慧に出会うことによって、真仏真土、つまり浄土が開けてくる。自分自身のいのちに背いてきた、罪悪深重であったと気づく。3番目は「礼拝」。つまり、五体投地をする、それは、懺悔を意味する。4番目は「称名」。つまり、名に称っているかと本願のいのちから問いかけら



れる。5番目は「讃嘆供養」。師主知識の御恩に報いていこう、人をお誘いして、共に聞法していこうという大悲の心が私たちに与えられて来るとお教えいただいた。終わり。

宗祖親鸞聖人御生誕850年・立教開宗800年慶讃法要

2023年3月25日(日)～4月29日(土) 真宗本廟の阿弥陀堂と御影堂で法要が開催、厳修されます。全国から参詣されますが、大阪教区でも参拝計画中です。

第48回近畿連区同朋の会推進研修会(リモート)のご案内

新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大を目の当たりにし、収束が見通せない不安は誰しもがお持ちでしょう。

今日、あらゆる仏事が影響を受けている中、私たち門徒の繋がりも希薄なものと言わざるを得ません。こうした中、収束を待つまでもなく、私たちが出来得る仏法の機会を模索していかなければなりません。

そこで、苦肉の策として、「連帯」を確かめ、共にお念仏の道を歩むべく、以下の通り、WEB開催をすることにしました。

皆さんの、ご理解をいただき、ご参加をお待ちしております。

日程 2022年2月16日(水)

受付開始 12:00

閉会 15:00

テーマ「この時代の中を、真宗門徒として生きる」

講題「只今、人間仮免許 練習中」～今、コロナ新型コロナウイルスに問われること～
講師 栖雲 深泥氏

(樹洩陽舎舎幹)

参加方法

寺院や個人のパソコンやスマホのZOOMアプリを使う。あるいは、大阪教務所(Tel.06-6251-4720)または参加寺院に出かけて視聴する。

参加申込 細川克彦(hosokawa5349@outlook.jp)にメールで申し込んでいただいたら、申込書をお送りします。

所要事項を記入の上、大阪教務所(osaka@higashihonganji.or.jp)へメールで申し込んでください。

折り返し、大阪教務所から、ZOOMのミーティングIDとパスワードをお送りします。

参加費 無料

申込締切 2022年1月18日(火)

お問合せは、細川克彦

(Tel, FAX06-6779-5349) まで。